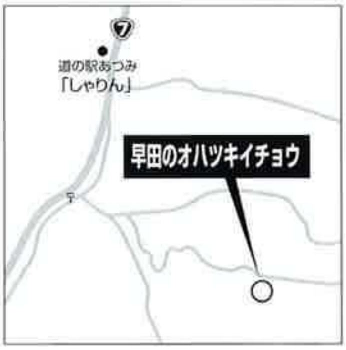
山形県の古木・名木 No.108

早田のオハツキイチョウ （わさだのおはつきいちょう）

鶴岡市早田字河内122

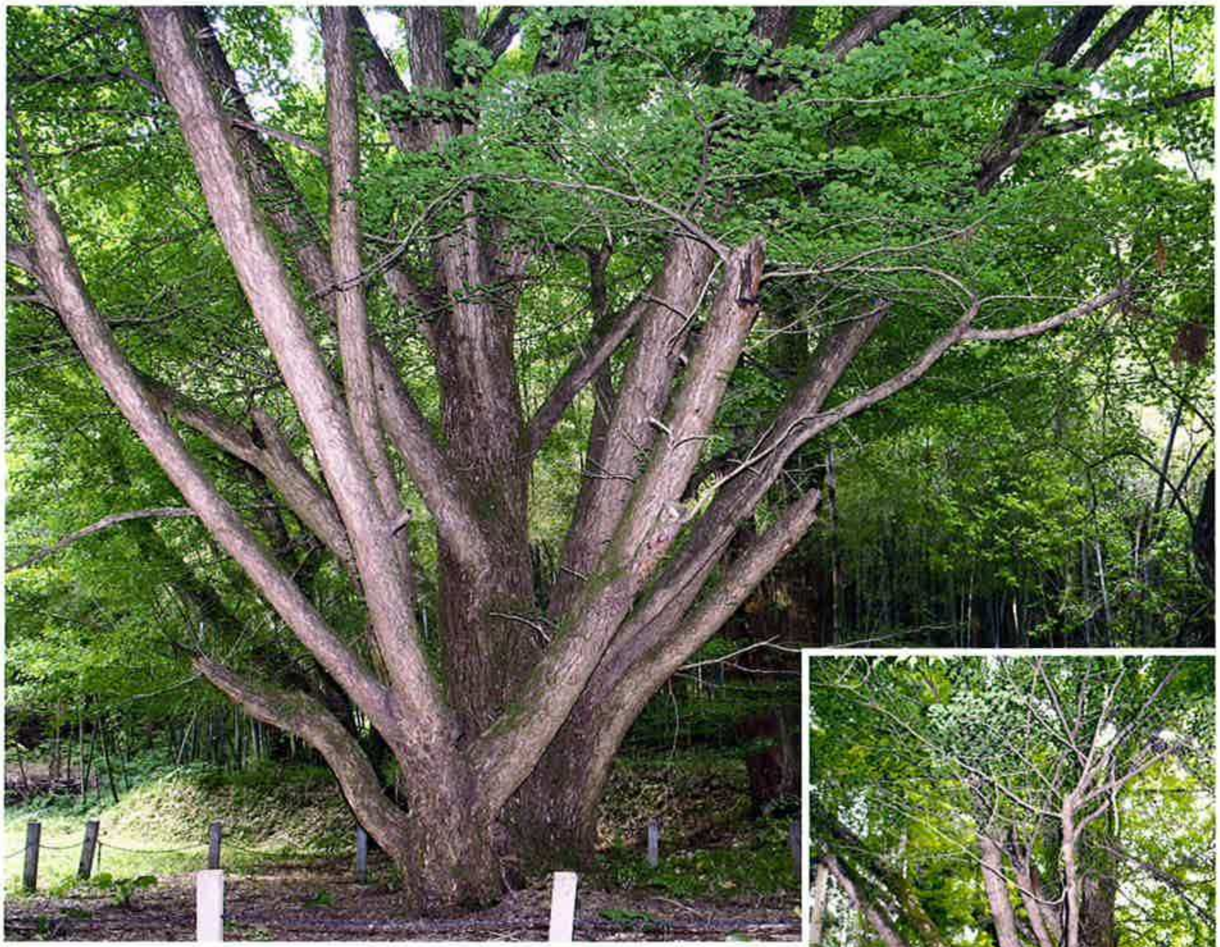
（案内略図）

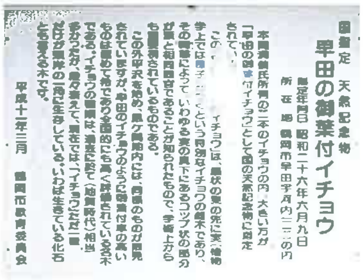


「早田の御葉付イチョウ」は、扇状の葉の先に実が付くという、いわゆる「お葉付き」といわれる特別なイチョウの雌株である。樹高10.4m、根回り2.15m、根もとから20㎝で三岐し、全体として盃状をなしている。市内の鼠ヶ関地内には、同様のイチョウが散見されているが、早田のイチョウの様に御葉付率の高いものは極めて希であり、全国的にも高く評価されている名木である。

昭和26年に国指定の天然記念物となっている。

〔山形県森林協会〕





国指定　天然記念物

早田の御葉付イチョウ

指定年月日　昭和二十六年六月九日

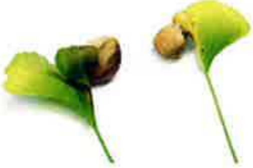
所　在　地　鶴岡市早田字河内一二二の内

本間清貴氏所有の二本のイチョウの内、大きい方が「早田の御葉付イチョウ」として国の天然記念物に指定されて、[illegible]

この[illegible]イチョウは、扇状の葉の先に実、植物学上では種子[illegible]という特別なイチョウの雌木であり、その葉柄によって　いわゆる実の真下にあるコップ状の部分が葉と相同器官であることが知られたもので、学術上からも重要視されているものである。

この外甲沢を始め、鼠ヶ関地内には、同様のものが散見されていますが、早田のイチョウのように御葉付率の高いものは極めて稀であり全国的にも高く評価されている名木である。イチョウの種類は、過去に於て（地質時代）相当多かったが、皆々衰えて、現在では、「イチョウ」ただ一種だけが地球の一角に生存している。いわば生きている化石とも言える木です。

平成十一年三月　　鶴岡市教育委員会



【森林やまがた136号（2011年11月）記載】